

# 考古学研究室報告

## 第 52 集

越高遺跡 B地点

2016年度 考古学研究室の足跡

2017

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：越高集落から越高遺跡を望む（航空写真）  
裏表紙写真：測量作業風景

## 序 文

2016年度の幕開けは、「熊本地震」であった。この127年ぶりの大地震は大学にも少なからぬ被害をもたらしたが、幸いにも学生は全員無事であった。授業もひと月ほど空白期があり、再開されたのは、5月の連休明け。その後も大きな余震が続き、不安な日々が続いた。皆、元気そうにはしていたが、今思い起こせば、私自身は少し鬱状態でなかったかと思う。このような状況なのでこの実習発掘の実施も危ぶまれたが、個人的な調査のため、調査日程をひと月ほどずらしていたのが幸いした。秋に差し掛かろうとする9月10日、学生13名を連れて対馬へ渡った。

今回は昨年果たせなかった遺物の層位的な出土状況の把握、地質学的な遺跡形成の検討、それに基づく遺跡自体の評価を目的として調査を実施した。調査期間中、2名の修士1年生が発掘を指揮した。調査には対馬市教育委員会、文化庁記念物課の全面的な協力があった。そうであったので、遺跡をちょっと舐めて、帰って来る訳にはいかない。目的を果たすため、学生に（とって）は過重なノルマを与えた。果たして、彼らは楽しかったであろうか。遺跡嫌いにならないか、考古学をやめるって言わないだろうか、叱る方も賭けである。しかし、決して注文のレベルを下げなかった。心は痛かったが、それが功を奏したのか、学生があきらめたのか、最後は目標どおり調査を終えることができた。

途中、自然界も彼らに試練を与えた。韓国慶州での地震を宿舎の民宿で感じた。地震慣れしていない韓国の古都は観光客の減少に苦悶し、まったく同じであると熊本を思い出した。また、その後に来た50年ぶりの大雨は次の宿舎であった青年の家の前を流れる三根川を氾濫させ、濁流となって田んぼや畑を飲み込んだ。遺跡ももちろん多少なりの打撃を受けた。自然災害の前に人間はこれほど無力であるのかをここでもまざまざと見せつけられた。学生たちも先史時代人たちの心を身近に感じたに違いない。

最後は、ご褒美に、韓国釜山へ旅行した。遺跡を残した韓国新石器人たちの足取りを辿る研修目的の旅であったが、おいしい料理と優しい人々がもてなしてくれ、良い思い出となった。これを機会に外国で学ぼうという学生が出ることを望んだが、果たして？

この報告書の作成にも学生は苦しんだ。何回も遺物の実測やトレースのやり直しを命じられた。ただ、創立45年を迎えようとする熊大考古の伝統は崩してはならない。一定の質を保つことが使命である。何度も学生に注文を付けた。これも内心、もういいだろうと何度も心が折れかけた。しかし、手を緩めなかった。うれしかったのは、文法もろくに知らない韓国語の論文を、辞書を片手に自ら読み、文意を理解し、韓国新石器の土器型式を議論できるまでに成長したことである。彼らはもはや半年前の彼らではない。苦勞の甲斐とはまさにこのことである。熊大考古の学生は苦勞した分、品質保証付きである。ぜひお求めいただきたい。

最後に、調査にご協力・ご助言いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

2017年1月22日

小畑 弘己

## 越高遺跡 B地点



作業風景 2016/9/11

## 例 言

1. 本書は、長崎県対馬市上県町越高こしたかに所在する越高遺跡（B地点：越高58番）の調査報告書である。
2. 調査期間は、2016年9月11日～22日の12日間実施した。
3. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、対馬市教育委員会と共同で実施した。
4. 調査担当者は、小畑弘己（熊本大学文学部教授）と岡田勝幸・豊永結花里（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）である。
5. 越高遺跡に対する調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含めて、次のように調査次数を整理する。なお、越高遺跡はA・B地点の2地点で構成される。第4次調査以前は、A地点を越高尾崎遺跡、B地点を越高遺跡と呼称していた。

越高遺跡	第1次調査	調査年：1976年12月11日～17日 調査内容：B地点の発掘調査 調査主体：上県町教育委員会・長崎大学医学部解剖学第二教室
	第2次調査	調査年：1978年7月16日～22日 調査内容：A地点の発掘調査 調査主体：上県町教育委員会
	第3次調査	調査年：1996年8月26日～9月13日 調査内容：A・B地点の発掘調査 調査主体：長崎県教育庁
	第4次調査	調査年：2015年8月16日～24日 調査内容：A・B地点の発掘調査 調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会
	第5次調査	調査年：2016年9月11日～22日 調査内容：B地点の発掘調査 調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会

6. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は磁北の北を示す。
7. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（2014）日本色研事業株式会社発行による。
8. 第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図（三根）、第8図は同発行の2万5千分の1地形図（鹿見）を複製したものである。
9. 出土土器の胎土分析および地形・地質の調査に際し、鐘ヶ江賢二氏（鹿児島国際大学）と西山賢一氏（徳島大学）より玉稿を頂戴した。
10. 表紙の航空写真については、対馬市教育委員会が株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託して撮影したものを使用した。
11. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。  
尾上博一（対馬市教育委員会）、鐘ヶ江賢二（鹿児島国際大学）、西山賢一（徳島大学）、古澤義久（長崎県埋蔵文化財センター）、寺田正剛（長崎県教育庁）、田中聡一（壱岐市教育委員会）、柴田亮（大村市教育委員会）、甲元眞之、禰宜田佳男・水ノ江和同（文化庁記念物課）、阿比留伴次、豊田佐伊士、本多 仁、本田武美、河仁秀（釜山市近代歴史館）、藤田勝一（株式会社埋蔵文化財サポートシステム）、対馬市教育委員会、長崎県教育庁、長崎県立対馬青年の家、大橋旅館（順不同・敬称略）
12. 調査参加者は以下のとおりである。  
小畑弘己（熊本大学教授）、山元瞭平（同社会文化科学研究科博士前期課程2年生）、岡田勝幸・豊永結花里（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、白岩加帆・松浦正朋（同文学部4年生）、新垣 匠・嘉戸愉歩・古賀菜々美・佐々木幸佑・稗田 翔（同文学部3年生）、赤峯由梨・廣重知樹・三浦 彩・安原真衣（同文学部2年生）、岩熊拓人（同文学部1年生）
13. 本書の編集は小畑弘己の監修を受けて岡田勝幸・豊永結花里が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

# 本文目次

一 位置と環境	1
1. 地理的環境	三浦 彩 1
2. 歴史的環境	3
(1) 対馬の原始・古代	3
縄文時代	安原真衣 3
弥生時代	〃 3
古墳時代	赤峯由梨 3
古代以降	〃 4
(2) 対馬における遺跡立地の変遷	廣重知樹 4
二 越高遺跡B地点の調査	6
1. 調査経過	6
(1) 既往の調査（第1次調査～第4次調査）	三浦 彩 6
(2) 今回の調査（第5次調査）	古賀菜々美 8
2. 調査の概要	10
(1) 調査区の設定	佐々木幸佑・稗田 翔 10
(2) 遺跡の層序	〃 11
(3) 遺物出土状況	〃 11
3. 出土遺物	13
(1) 土器	新垣 匠 13
(2) 石器	嘉戸愉歩 15
(3) その他	〃 15
三 自然科学分析	28
1. 放射性炭素年代測定	パレオ・ラボ 28
2. 越高遺跡出土土器の岩石学的分析	鐘ヶ江賢二 31
3. 越高遺跡B地点 地形・地質調査結果	西山賢一 36
四 まとめ	岡田勝幸・豊永結花里 41

## 図 版 目 次

- 図版 1 1 越高遺跡遠景（北東から）  
2 B地点調査前近景（東から）  
3 空から見た調査区（上が西）
- 図版 2 1 海岸部・トレンチ全景（南から）  
2 海岸部堆積状況（東から）  
3 海岸部第4層遺物出土状況（東から）
- 図版 3 1 谷部全景（西から）  
2 谷部堆積状況（南西から）  
3 谷部第4層遺物出土状況（南から）
- 図版 4 1 越高遺跡B地点出土土器（1）  
2 越高遺跡B地点出土土器（2）  
3 越高遺跡B地点出土土器（3）
- 図版 5 1 越高遺跡B地点出土土器（4）  
2 越高遺跡B地点出土土器（5）  
3 越高遺跡B地点出土土器（6）
- 図版 6 1 越高遺跡B地点出土土器（7）  
2 越高遺跡B地点出土土器（8）
- 図版 7 1 越高遺跡B地点出土土器（9）  
2 越高遺跡B地点出土土器（10）
- 図版 8 1 越高遺跡B地点出土土器（11）  
2 越高遺跡B地点出土土器（12）  
3 越高遺跡B地点出土土器（13）
- 図版 9 1 越高遺跡B地点出土土器（14）  
2 越高遺跡B地点出土土器（15）  
3 越高遺跡B地点出土土器（16）  
4 越高遺跡B地点出土土器（17）内面に条痕がある土器
- 図版 10 1 越高遺跡B地点出土土器（1）  
2 越高遺跡B地点出土土器（2）

## 挿 図 目 次

第1図	越高遺跡の位置	1
第2図	対馬の地質図	2
第3図	第1次調査 調査区位置図	6
第4図	第1次調査 土層断面図	6
第5図	第3次調査 調査区位置図	7
第6図	崖面不織布貼付状況（南東から）	8
第7図	地形測量図および調査区平面図	(廣重製図) 9
第8図	越高遺跡B地点調査区位置図	(岡田作成) 10
第9図	海岸部土層断面図	(佐々木製図) 12
第10図	谷部土層断面図	(稗田製図) 12
第11図	出土土器実測図（海岸部第4層）	(廣重・安原製図) 16
第12図	出土土器実測図（海岸部第3層）	(廣重・三浦製図) 17
第13図	出土土器実測図（海岸部層位不明）	(赤峯・新垣製図) 18
第14図	出土土器実測図（谷部第5・4層）	(新垣・稗田製図) 19
第15図	出土土器実測図（谷部第4層）	(古賀・三浦製図) 20
第16図	出土土器実測図（谷部第3層・層位不明）	(古賀・稗田製図) 21
第17図	出土石器実測図（1）	(嘉戸・安原製図) 26
第18図	出土石器実測図（2）	// 27
第19図	暦年較正結果	(パレオ・ラボ作成) 30
第20図	越高遺跡（2016年調査）出土土器の鉙物組成グラフ	(鐘ヶ江作成) 33
第21図	越高遺跡出土土器の偏光顕微鏡写真（スケール約0.5mm）	// 34
第22図	越高遺跡・東三洞貝塚出土土器の偏光顕微鏡写真（スケール約0.5mm）	// 35
第23図	越高遺跡の前面に広がるバーム（後浜）	(西山作成) 38
第24図	谷壁面の露頭状況	// 38
第25図	海食崖面の露頭状況	// 39
第26図	海食崖面で観察される礫の赤色変色部	// 39
第27図	IV層に含まれる亜円礫	// 39
第28図	IV層に含まれる炭質物と亜円礫	// 40
第29図	海食崖前面トレンチにおいて-V層にアバットする堆積物	// 40
第30図	背後斜面の頁岩露頭にみられるスレーキングによる角礫の堆積状況	// 40
第31図	土器出土位置図	(嘉戸・豊永作成) 42
第32図	放射性炭素年代測定結果比較	(岡田作成) 44

## 表 目 次

第1表	越高遺跡B地点基準点座標一覧（局地座標）	（岡田作成）	8
第2表	出土土器分類表	（新垣作成）	15
第3表	出土土器観察表	〃	22
第4表	出土石器観察表	（嘉戸作成）	27
第5表	測定試料および処理	（パレオ・ラボ作成）	28
第6表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	〃	29
第7表	分析対象の土器と鈎物組成	（鐘ヶ江作成）	33
第8表	出土地点別土器集成表	（豊永作成）	43